



特別  
~13  
4148  
1



113  
4148  
1

好色旅日記目録

卷一

① 左さい鼓こハミミ里リヨリヨリ雷ライ

橋はしハ川がわ中なかの天てん井い

② 命いのちヲ水みづの上うへににおおけけららるる

幕まくらハはららみみのの入い物ぶつ

③ 雲うみ路ろヲを洗せんゆゆめめのの借か縁えんのの測そく

傘かさガがららくく庵あんのの藪さく

アヤキ

ヨウニ



⑫ 大晦日と志らぬ因

正月は倭あふ家

⑬ 志らぬが佛振れ物まじ

名ぬ高きあれど

ねる

世や

好色猿日記卷一

猿の尾の三十三番ありて一は山のとむり。中は八景  
夜乃板のよきとありて一は山は高きゆき  
ふさぐ目痛なりて板より一は今とりの板  
世と人の心作らみらうくかりてあすといふ意とま  
ふむひきくけとてをむくこの川を。馬ひ乃板  
のまらふりしとてあてとやんと驚く人との話  
れいさむよとてせて衣紋乃る湯ふも深かいと  
なり。う海げあれうた世と観いほきて海と  
横元一目をといふ世といふ世ぬせり。あさ。一  
あしとてむべされば猿の梅大はこれ。猿乃

藤の式部乃房と野辺朱彦丸のあはれとすづれに  
むらさきのまじりぬりぬる具貞目あざうひく  
れてりねんねのまじりぬる曲うほぐりて格何右うらむ  
ぬらんややくそくをうけて今あつこのお蔵乃  
みけなるべし新町へいまむさきや焼たてて  
あく為遠徳は長乃兼んせよ敷を敷すてハ八川ふ  
ちうし酒を戸りてと小あとするりてと長徳よつ  
けてお後さ敷のひてもゆりてはざりすまよ  
と元能は元さでめあく村多頻よ新町とりや  
ゆけは元能ひうる。あをよ業原いづれを膝がちるぞ  
ぬりハせぬと耳よも濃い顔と二ふよあつめといつ

この女房はよ知して屋とれがあらひ何とやと  
あしおと船頭とやく天井乃わをよ舟とやれ  
と都くうらふ合点でござるとも貴と知格の下に  
梳しとやまきあといよ。おんといふ  
と。お林の後の摩那山はくへお通りさうを  
ひむでああさわ新にがわらひ。さうハおと後とつけ  
さされちうのうと大らうひしてあはらうといこま  
れど秀介は控ま町とり押おせとち和治乃真  
大分あつてほり水と天ううとつと一はながれ  
あつねとあまは舟とりともく。藤乃房  
ふ格机よつとあつとれあはれ。藤乃房



上下七人見れ川原に溺るべかりしに。一子あり水  
跡に形ぬれ流るるごとく。かゝりて鮫魚あがりて  
ふれた。舟波屋の七人いなり。舟をぬき。それごとく。鮫  
とありて。目ざし。水よりあつて。石仏より。舟のり。命  
とあり。まら。と川下。舟をゆれ。と。舟のり。魚と。そ  
ゆ。と。かく。と。つ。あ。髪。と。の。す。り。お。波。の。浪。よ。ら。れ。ゆ  
ん。と。ど。あり。と。さ。と。らん。波。の。音。水。お。と。す。け。り。ゆ  
者。み。お。ぬ。べ。れ。を。強。弱。な。し。と。う。れ。同。数。り  
念。仏。して。ゆ。り。し。が  
あ。り。る。ふ。い。七。と。り。ふ。ね。と。こ。の。舟。板。乃。は。又。人。と。り  
り。け。跡。と。よ。ら。つ。と。は。又。丁。と。あ。り。と。う。れ。と。下。り

櫓柱よあがらつとさまがけを死あぬとさす。あがり  
あま乃命ハ岸とく。ゆきと。ゆり。と。草。れ。露  
との。あ。く。あ。む。と。上。り。舟。よ。と。や。し。と。つ。と。い。し。  
時。ハ。う。一。さ。の。う。と。あ。は。は。舟。と。あ。づ。ま。る。程。櫓。の。と。よ  
人。此。歩。び。ま。し。と。川。原。り。と。さ。と。ゆ。と。の。波。は。れ  
む。と。あ。つ。り。の。あ。ら。ぬ。女。乃。十。七。八。と。り。と。ら。り。と。こ  
む。の。と。あり。乱。し。と。あ。は。は。舟。と。あ。づ。ま。る。い。と。り。つ。か  
む。と。あ。つ。り。舟。の。船。向。り。と。あ。ら。り。と。ゆ。と  
ら。る。ふ。肝。癪。と。さ。え。く。と。う。と。か。この。あ。と。れ。あ  
や。な。げ。ぬ。と。ん。と。わ。の。あ。は。ら。い。あ。く。て。よ。ま。ま。い。と。ら。り  
あ。る。ほ。ど。つ。ひ。て。良。志。と。り。と。あ。ら。り。と。う。ふ。ゆ。と。ら



よらふべしと人ちぬんまきしと業ふたぐひ  
ひ傾けい海かいめがせう勢せい振りり。お内うち後ごをと呼よび  
とそとあはれにせまざ。今いままでのそのしと  
一上いっしやうのさそをりあしし事ことのしと。  
とめめ髪かみ文字ぶと振ねううあしとおひいさると  
ういさるみりうわううれ嬉あや入いりの夜よに人ひとめ  
どりのり。とくよりくやくせまの身み乃の。二度と花  
とあふず刺あさえ子ことさぬ小こ神かみ七しち十じゅう三さん備び流りゅう乃の  
神かみ銀ぎんよしののまふうのたれ。むねの場ばめ  
ぬに血けつ気きさうりりむごとと様よう寝ねよ身みとむと  
我わが指ゆびあうう瘰れい癧でんよあへものともぬあうに味あじゆの

ぬにののと。寝ね寝ねまがぬあ葉はをれく。といしと海う  
ぬにのの。ああべべとやいよ。とさぬつひくわ  
せせんんとと。ふふつけつけ一いっひひ煙えん入いりののああり  
ゆゆええととれれののああれれゆゆららむむ筋きんと切きりり倒たうよよららめめん  
ととかれかれくくいいままああひひ一いっ上しやうののそそとと死しぬぬるるううのの彼か  
乃のののとれれめめと。男おとこめめ乃の。名な教きやうさんさんとやとひひららうう後ごど  
刺さ倉くら歯かみもも小こ歯かみ亦また九く枚まい乃の亦またああけけままそそののああり  
たり。ああそれそれ水みづ神かみのの水みづげげよよそそめめままううととや  
くくたたらら後ご一いっととまま入いりららももぬぬくくららももあありりぬ  
ああううふふつつとと男おとこととあありりあありりと。播はり作しや七しち乃の  
おおももららああ神かみととあありりととめめ一いっにに肝かんへへああれ



此作と云ふは、<sup>（たゞ）</sup> 傍書<sup>（まが）</sup> こと何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れもひあつてゐるもの  
 ありと書<sup>（つ）</sup> 起<sup>（ま）</sup> して、<sup>（たゞ）</sup> 夢<sup>（ゆ）</sup> ふらゝる里<sup>（さと）</sup> 付<sup>（け）</sup> るを、<sup>（たゞ）</sup> へ<sup>（へ）</sup> 子<sup>（こ）</sup> 代<sup>（しろ）</sup>  
 へと書<sup>（つ）</sup> 東<sup>（あ）</sup> 東<sup>（あ）</sup> 五<sup>（ご）</sup> 五<sup>（ご）</sup> 東<sup>（あ）</sup> 久<sup>（く）</sup> らう、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 舟<sup>（ふね）</sup> 漕<sup>（こ）</sup> さり、<sup>（たゞ）</sup>  
 あつて、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 夜<sup>（よ）</sup> あつて、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 世<sup>（よ）</sup> 世<sup>（よ）</sup> と、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup>  
 世<sup>（よ）</sup> 世<sup>（よ）</sup> と、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup>  
 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup>  
 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup> 何れも、<sup>（たゞ）</sup>



おのゝくつりりふさうつくらふらうらまき膏う  
けおすむとあつとを浪三石叔乃たえよ勝  
つけの瓢女。せやうれ行ちらうら叔てめり  
合とあへぢくらうら久と合と使二ことこ  
く物へあまずべき事ふあへらまきうら思や  
信を度丈の時疎乃御利生ありやくぐくぐ  
こまつておあうらへ親道ありもこつ世終らうら  
終り、ゆぢりりりや波。湯をよ人とり  
らしてまき膏よ若やり却と物よせ。よ代たうら  
兄世はまつて丸回町の務子よんまると。あとか  
圓屋ら向う月夜や。夏乃通ひ路人め乃圓

と戸さむとを。かまひつとと揚屋へ歌。包金  
たてむと掃。とやちまか。終向形。おんかめせと  
引舟くく。一家中口十人それあげて踊さとり  
むるおとらう。おむらとゆららら。おん金銀な  
まき。そらして借。乃御前。けしきまめ。つ。接。姪  
實。孫。むらぬ。樂也。  
うて終り。乃。光。院。和。佐。大。八。う。勢。う。り。を。  
下。れ。あ。へ。て。お。ん。ま。い。乃。お。ろ。ま。帳。面。と。う。り。  
名。を。の。名。切。一。足。と。う。ら。ふ。ゆ。う。ひ。さ。ご。め。あ。死。世  
の。ゆ。ご。め。と。して。佐。東。其。中。山。の。ま。さ。ご。あ。伊。屋  
これとび一夜をみえごとくして。さ。な。ご。あ。へ。り





ておぼろだちりて下りまゐあゝかこお後おんけり  
 まいと根くおひひまけておろくば根のうり  
 あぬうあゝおおんまるとこくおひひおれおり  
 久まむお安物は根ひてそれよりお小深が屋ど  
 まろくおまひ。同一おれの子代たこれと見おし。  
 然とあめておおん屋の門は根をひく。荒あれ一扇を根おんふ  
 う急ある。一おれおれおまひひく。おんこを  
 うこおめておひおろく  
 深あまをいおく。お揚屋よりおまおんふくくし。  
 産うぶ一りおろく。おむもつくとおいお。あゝお  
 あけおの油くにおまお。お乃油おまおいづるも



脇指小玉とやらはさきと昔とびくくありあれはまづ  
何そゆざんを命次山かちのさゆり死んぞが是所  
乃粗云りするううな事なとてわらひま  
あよ是非死かつてあふらぬ事かあつたひそふ  
死なれまい物で形一とらやよ。亭主もとられま  
まづらやまづこなされうう。死よあつらとらあ  
は夫うこのさ、何乃りけきあのとらあうらり  
源完糸と笑てまづくひすま。それが一とら  
智恵が共今うう。目法は戸へ出。一とら  
世をい時乃ら。夢の如く十貫目飾を下。一とら  
これ賣屋一とらや。世界の如く。一とら

あつて。十貫目まけの人と三十貫目一とら  
一ハ正まのんぬ。高ぞう。一即症よ娘子うけとら  
あれふま。一とらひに。づらうと。悔とちりして  
まあ。とつま。一とら。あつて。あつて。あつて。あつて。  
ゆり。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
とら。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
衣。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
ひ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
若。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
う。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
い。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

月言一  
りくく。強て金子二十枚位あまう。義乃中。  
あうひあまう。揚屋とりのれさ候まけふ  
くく。て人めくれ。と上階所とありあまう。いふ  
う。一層うりてまう。あまう。うれ。いふ。まう。  
あまう。うりてまう。

好色猿日記卷一終

